

コロナ危機に打ち克つ 安全最優先でインフラ事業を継続

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大によって、当社グループの事業も大きな影響を受けました。このような未曾有の事態の中で私たちは、お客様と従業員の安全を最優先しつつ必要物資の輸送を通じて社会と経済を支える海運事業を継続しています。

■ 「キーワーカー」の船員の円滑な乗下船を

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当社は日本政府の緊急事態宣言の1カ月近く前の3月9日から陸上役職員の全面在宅勤務に移行しました。緊急事態宣言が解除された5月25日以降は、情勢をみながら徐々に在宅勤務を解除しています。ただ、海上で船舶を動かす仕事に従事する船員の仕事はリモート化できません。

新型コロナウイルス感染拡大によって、社会と経済を止めないために不可欠な仕事に従事する「キーワーカー」の重要性が再認識されました。世界中の人々が生活していくために必要な物資やエネルギーを輸送する船舶を動かす船員は紛れもない「キーワーカー」です。国際海運では現在、フィリピンなどアジアを中心とする国々の船員が主力を担っています。

国際海運の船員は通常、一度乗船するとその船で半年から9カ月ほど勤務します。雇用期間が終了すると寄港地で下船して航空機などで帰国し、同じ港で交代の船員が乗船します。

この船員の乗下船が、新型コロナウイルス感染拡大防止のために各国が採る出入国制限や移動制限によって非常に難しくなりました。そのために本来の期間を超える長期間の乗船を余儀なくされる船員が、当社の運航船を含めて世界中で大きな数に上っ

ています。

当社の加藤雅徳常務（安全運航本部長）は「当社の場合、船員交代を完全にストップしていたわけではなく細々とでも交代を続けてきましたが、状況把握が難しかったり日々状況が変わったり、先が見えない中で担当者にはかなりの苦労がありました。そのような中、海運業界団体の日本船主協会を中心にスクラムを組み、国土交通省の力もお借りして何とか交代ができる道を探り、できるところから交代を行ってきました」と話します。

例えば船舶が本来の航路から外れて、船員の母国や比較的乗下船しやすい国に寄ってそこで交代したり、定期国際便がストップしている場合は各国業





界団体が手配したチャーター便の利用など、さまざまな工夫をしながら船員の交代を行っています。

こうした努力によって状況は徐々に改善してきましたが、コロナの感染拡大が続く中で交代が容易に行えない状況に変わりはありません。加藤常務は「キーパーカーである船員が乗下船のために移動できるよう、可能な限り制限を撤廃していただきたい。ただし、船内感染のリスクを伴った撤廃では意味がなく、船員がPCR検査を優先して受けられるといったご配慮をいただきたい。船内にウイルスを持ち込まないよう、また、可能な限り通常通りの交代を行い船員が長期乗船で疲弊することがないよう、対策を考えていく必要があります」と述べました。

■ 安全・安心の船旅をご提供

当社グループの事業の中でも、大勢の一般のお客様を船内にお迎えするクルーズ客船とフェリーは特に新型コロナウイルスの感染防止に努めなければならない部門です。当社グループのクルーズ客船“にっぽん丸”と国内フェリー船隊は、徹底的な感染防止対策をとった上で安全・安心の船旅を提供します。

“にっぽん丸”はコロナ危機後約半年にわたり運航を休止しましたが、「感染者乗船のリスクを減らす」、「船内での感染リスクを抑える」、「感染拡大リスクを抑える」の三つを柱とする万全の感染症対策をとって運航を再開しました。



クルーズ再開後、館山港停泊中の“にっぽん丸”



感染症対策を施した受付での様子



“さんふらわあ ぎりしま”



フェリーも船内では徹底した消毒作業を行っている

新規にサーモグラフィーを導入し、乗船時のほか、航海中も毎日の検温を行っています。この情報を乗船証と紐づけて管理するとともに、体温異常のアラーム検出によって発熱者を発見します。また、独自に開発した濃厚接触者特定アプリでも、乗船証を利用してダイニング等の着席位置を把握しています。

船内の清掃や消毒は、専門家による指導を受けた乗組員が頻繁に行っています。ビュッフェスタイルの食事を中止しダイニングの人数を制限するほか、大浴場の混雑状況を客室内のテレビに表示、オプションツアーや船内の催し物もソーシャルディスタンスを確保した運営に変更しています。

さらに、万が一感染者が発生した場合の対応もあらかじめ定めています。

当社グループの国内フェリーも万全の感染防止対策をとっています。関西～九州航路を運営する「フェリーさんふらわあ」は、業界団体の一般社団法人日本旅客船協会が定めた旅客船の感染防止ガイドラ

インに加えて独自の「さんふらわあ基準」を設けました。全運航船に抗菌・抗ウイルスフィルターや業務用空気清浄機などを導入し、船内の空気清浄度を医療機関並みにすることを目指し取り組んでいます。また、相部屋の客室では定員を削減し、隣と一定間隔を空けて配席しています。船内の清掃は除菌消毒作業の専門業者の研修修了者が行います。

関東～北海道航路を運営する「商船三井フェリー」も同様の感染防止対策をとり、ご利用の多い夕方方便(さんふらわあ ふうの)の5階プロムナード、6階階段室に紫外線殺菌装置を設置しました。この機器は紫外線を照射して周辺の空気を殺菌し、空調の空気の流れを利用して効果を広げます。

なお、自宅からマイカーやレンタカーを利用して移動し、車ごとフェリーに乗船して個室に宿泊すれば「3密」を避けながら目的まで行くことができます。そのような旅の例を「カジュアルクルーズさんふらわあWEB」でご紹介しています。

◇クルーズおよびフェリーの最新情報は下記よりご確認ください。

にっぽん丸WEB

<https://www.nipponmaru.jp/>

カジュアルクルーズさんふらわあWEB

<https://www.mol.co.jp/casualcruise-sunflower/>

◇フェリーの各種感染防止対策は下記よりご覧ください。

●商船三井フェリー

<https://www.sunflower.co.jp/information/important-news/20200827.html>

●フェリーさんふらわあ

https://www.ferry-sunflower.co.jp/news/article/post_60.html



PICK UP

“にっぽん丸”、改装で楽しみ方はより多彩に

2020年春の改装によりバージョンアップした“にっぽん丸”。現在、船内のあちこちに「Renewal2020」のフラッグが掲げられ、華やかな雰囲気演出しています。

パブリックスペースでは、“にっぽん丸”のメンバーとして、ホライズンラウンジ内に「ホライズンバー」がオープン。伝統のオリジナルカクテルに加え、コーヒーを使った新しいカクテルなども提供します。クルーズの夜の楽しみが進化しました。「eカフェ&ライブラリー」も新装開店。観葉植物があしらわれた爽やかな印象のカフェで、有料で極上のコーヒーやフルーツジュースを堪能できます。

“にっぽん丸”の「食」を味わっていただくだけでなく、目で楽しみ、歴史や文化を知っていただくために「にっぽん丸 SHOWCASE」と銘打った試みも始めました(クルーズ限定)。「シェフズテーブル」では、シェフの調理を実際に見て、説明を聞きながら夕食をお楽しみいただけます。また、リドテラスにも新メニューが登場しています。

客室では最大6名での利用が可能な「コンセプトルーム」や、大きな船首窓から雄大な海の景色が楽しめる「オーシャンビュースイート」など、新カテゴリーの客室が誕生。過ごし方の選択肢がぐっと増えました。



ダイニング瑞穂



eカフェ&ライブラリー



食のデモンストレーション

リニューアルした“にっぽん丸”の様子は、下記の動画でもご覧いただけます

2020年、就航30周年を迎え改装した“にっぽん丸”をダイジェストで紹介するイメージPVです。

<https://youtu.be/knVGh9JY190>



2020年10月17日～18日には感染予防対策を含む、新しいサービスを取り入れたトライアルクルーズを行い、安全対策を確認しました。

<https://youtu.be/QCghl76liww>

